

鶴岡市合併20周年記念

第24回

鶴岡江戸川
友好交流演奏会

ブラームス

「運命の歌」
「哀悼の歌」
「悲劇的序曲」

指揮：工藤 俊幸

管弦楽：酒田フィルハーモニー管弦楽団

合唱：江戸川第九を歌う会、鶴岡江戸川交流合唱団

「二度とない人生だから」

指揮：浅井 隆仁

より

ピアノ：太刀川 琴絵

合唱：江戸川第九を歌う会

「リフレイン」「時代」「種子」

指揮：百瀬 敦子

ピアノ：百瀬 望

合唱：鶴岡江戸川交流合唱団

2025

日

6/15

13:30開演
(13:00開場)

鶴岡タクト銀荘
大ホール

TEL.0235-24-5188

チケット：一般 2,000円

ペアチケット 3,500円

学生（高校生以下）1,000円

※当日券は各500円増し

主催/第24回鶴岡江戸川友好交流演奏会実行委員会

後援/鶴岡市、江戸川区、在日日報社、東田川文化記念館、

鶴岡タイムズ社、コミュニティ新聞社、山形新聞・山形放送

お問合せ：事務局 河野 TEL.0235-22-4349

◆チケットはこちらでお求めください。■荘銀タクト劇場、八文字屋鶴岡店、おんがくハウス、東田川文化記念館、滝沢眼科

歌う会」は、戦時に鶴岡に疎開した江戸川区と鶴岡市が友好都市となり、ベートーヴェンの「第九」を交互に演奏し、交流を図ることを目的として1994（平成6）年に発足。鶴岡市市制70周年記念（1993年）として、10月29日に鶴岡市文化会館で、ベートーヴェンの「第九」を、指揮村川千秋、演奏山形交響楽団、ソリスト五十嵐郁子、大橋ゆり、大野光彦、黒田博の各氏により行われました。

昨年の第23回交流演奏会は4月21日、江戸川区総合文化センターで、ヴェルディ作曲「レクイエム」が演奏されました。

ロサンでは、学校と分かれた幼稚園の勤務となり、問診所で働くことになり、充実した毎日でした。

毛沢東の子どものジュウジュウという女の子もいました。人見知りのしない明るい子で、私にもなついてくれました。(つづく)

薔薇

薔薇（しょうび）

城貞（藤の花）

六月緑濃夏日長
院中老大倚円牀
暖回玉薔花争発
五色薔薇庭際香

六月 緑 濃やかにして夏日 長し
院中 老大 円牀に倚る
暖 回り玉薔 花 争い発く
五色の薔薇 庭際 香し

六月になり、木の緑も濃くなり、強い日ざしは長く続き

庭の中にいる、としよりの人は、まるい石の腰かけに、よりかかっている。

暖かさが巡って来て、気温も高くなり、きれいな花の薔が、われ先に咲き始めた。

五色のバラの花が咲き、庭いっぱい、バラの香りが漂ってきた。



あつみ温泉ばら園

緑濃 木の葉の緑色がこくなる。院 庭。老大 としをとった人。
倚 よりかかる。牀 腰かけ。玉薔 きれいなつぼみ。五色 白、赤、黄、紫、燈の色。薔薇 バラ。庭際 庭。

産直センター田植え交流会



横浜の4つの保育園 戸塚みどり保育園の園児24人、保育士等12人が大型バスで来訪して行われました。
交流名は「生命の源にふれる旅」として28年間続き、コロナ禍で出来ない時を除き25回目です。
一行は前日に月山自然博物館での散策をし

横濱の4つの保育園 と、米産直でつながっている庄内産直センター（小林隆範組合長）との田植え交流会が、2週に渡って1泊2日の日程で行われています。
5月24日（土）は、藤島・野田目の佐藤一晴さんの田んぼです。
小雀みどり保育園と

動けば変わる 意見・要求を 政治へ

政権与党が過半数割れとなつて、国民の要求が通る可能性が開かれました。
市政も同様に、声をあげれば変わります。体育館のトイレが壊れたままなど、意見・要求をお寄せください。

あなたの声を届けます

氏名
連絡先
切り抜いて、共産党市議団や
民報配布者にお渡しください

て、羽黒の宿坊に宿泊し、自然と農業、食を体験して、生産者との交流行われました。

31日（土）には、朝日

リース防犯灯が町内会へ移管

鶴岡市は令和7年度LED防犯灯が10年間のリース期間が満了し、市から町内会等へ所有を移管しています。

LED防犯灯の更新修繕は町内会等が行うことになり、市は工事に係る補助金を交付します。

補助割合は、新設は

地区大綱で、園児と保育士等70人以上が訪れ、同様の交流会が続きます。

1/2以内で、1灯につき上限1万2000円（要塩害対策地区は加算6000円）、移設は上限1万円、専用柱は1/4以内で上限1万円です。

修繕・更新の費用増加分として、総合交付金を増額しています（年間電気料の95%）。



米が高くなる入札

ワッパ騒動とかワッパ一揆と言われる農民の闘いは、ワッパと呼ばれる薄い木の板で作った昔の弁当箱が一杯になる程のお金が返ってくるぞ・というもの。

▲当時の県庁は酒田に在って、ここは酒田県。その酒田県が、納税が今のようにお金で出来るように変わったのに、それを農民に知らせずにお米で集めたんだと。お米が値上がりして県が儲かる事に。この値上がり分を農民が取り戻そうという闘いがそれ。裁判で勝って、お金は・・・

▲備蓄米の入札は国が儲かったんだろ・と思うのは、どんな会計になつていいのか知らないが、古いのは何年前のお米だったのか。とにかく高く売ったんでしょ・入札だから。

▲お米が無くて、値段

が上がっているから備蓄米を出すんだ。何故安く買っておいた備蓄米を安く出せるようにしなかったんだろうか。

▲政府は、米を出したのに値段が下がらないと苦言を呈しているが、困っているのは米を買えないカアチャン達だ。店にお米が無いって。

新大臣は米が安くなる入札にするんだとか。

▲おやつと思つたのは、備蓄米を落札した会社は、落札した量の米を国に補填しなければならぬ。安くないんだって事。安く買って貯めておいた米を高く売って、もっと高い米を納めろ・だと。それを国はナンボで買ったんだか。

▲品物が無いから米価高騰だ。田植えが終わったばかりの青田が契約済みだと。国は網目1.6mmで見積り、農家は1.9mmの網目で袋詰めが現実。この差がありながら米の作付け制限するから、米は足りないんだ、新大臣。（石川）